

医療用医薬品における添加物検索システムの構築

鈴木 聡子¹、中村 典子⁵、金子 貴俊⁵、櫻田 大也¹、鈴木 弘誉⁴、山田 重行⁴、福島 昌浩⁴、網岡 克雄³、佐藤 信範²、上田 志朗¹

¹千葉大学大学院 薬学研究院 医薬品情報学、²千葉大学大学院 薬学研究院 臨床教育学、³金城学院大学 薬学部、⁴株式会社スギヤマ薬品、⁵データインデックス株式会社

【目的】国民医療費に占める薬剤費の抑制のため、厚生労働省は後発医薬品の使用促進に積極的に取り組んでいる。これを受け、多くの医療機関において後発医薬品の採用が検討されているが、諸外国と比較して、その採用率が低いことが問題視されている。その要因の一つとして、品質上の問題が挙げられ、その品質を左右するもののひとつとして、製品を構成している添加物の違いも大きく関与しているものと思われる。そこで、医薬品に含まれている添加物に関する情報と、副作用をはじめとする各種情報を組み合わせたシステムを構築することで、後発医薬品の採用を検討する場合における製品間の比較や、患者への情報提供を行う際のツールとして、有用な情報を迅速に検索可能となるものと考え、添加物データベースの作成を試みた。

【方法】医療用医薬品の添付文書から添加物を抽出し、抽出した添加物を個別医薬品コード、商品名、規格、薬価などの基本情報と関連付け、添加物については同義語処理を行った。このデータベースをもとに、1) 薬品間比較、2) 添加物名の検索システムを作成した。

【結果・考察】今回構築したデータベースの有用性は、検索対象の漏れが発生せず、各種条件設定が可能である点にある。これにより、臨床現場での活用の他に、新薬の審査や副作用の発現に係わる検討においても有意義なデータベースと考える。更に、多くの医薬品情報が迅速で簡単に入手できるようになっているが、情報のメンテナンスにかかる労力や散在する情報の集約に関しては、工夫や改善の余地があることは否めない。今回構築した添加物データベースは、最新情報へのアップデートも短時間で容易に行うことができ、データベースの生成手法についても効率性と継続性にも着目したものとなっている。